藍本から相野川を広野までを歩く

第 94 回武庫川エコハイク
20150214 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km^2、篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門（むこみなと）」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は篠山市にある。篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川渓谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22（2010）年 10 月、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

JR 藍本駅 相野駅、広野駅とともに明治 32(1899)年当時の阪鶴鉄道の三田駅から篠山口駅までの延伸にともない開業。相野駅はテクノパーク、加東市今田への玄関口。

藍本庄宿 江戸時代の丹波街の往還の要衝にあたり、藍新町の名が出たところで、夜に日をついで駅鈴の音が聞こえ、紅灯のもと、弦歌の絶えることなく栄えたといわれる。孝徳天皇 647 年が藤原鎌足に命じて藍の種子を本庄地区に蒔かれた。栽培地は相野、広野まで広がり、藍の本として藍本と呼ばれた。

丹波杜氏と旧街道 「灘の生一本」と江戸時代にもてはやされた灘五郷の酒造りには、丹波の酒造りの職人「丹波杜氏」の存在は欠かせない。秋の刈り取りが終わるころ丹波から稼ぎに出て、春には酒造りを終えて稼ぎと土産話を手にこの日出坂を越えていった。行き帰りには酒の神である酒滴神社に参り、藍新町の宿屋は賑わったという。日出坂は酒滴神社の幣（しで）坂がなまったものといわれ攝津と丹波の境である。

大きな転石 酒滴神社から街道を少し下った所にある大きな転石は、虚空蔵山の裏側の大川瀬から飛来したといわれ、また住吉神社と酒滴神社が喧嘩して住吉神社が投げた石とのいわれもある。その後大川瀬との往来が絶えていると言われる。酒滴神社はヘビの神様、住吉神社はカエルの神様。

酒滴神社 貞観年間（859～877）疫病が流行したとき、村人の夢の中にスサノオノミコトと名乗る童子が現れ、山中に湧く霊水を教えた。その霊水を飲んだ病人がたちどころに治ったことから信仰を集めた。第 1 鳥居の石造鳥居は応永 2（1395）年造立で県下最古のものとされ、宝塚市の波豆八幡神社と同じ形式で波豆の石工が製作したものと考えられている（県指定文化財）。また神社には算法額が奉納され県下最古のものとされている（市指定文化財）。

三田市最古の道標 市内で年号のわかる最古の道標が郵便局前の踏み切りのガードレールの端にある。「元禄五歳」とあり 1692 年を示す。巡礼の道標で播磨の清水寺へのもの。

曲（まがり） 武庫川がここで 360 度曲る。この武庫川に囲まれた地区には中世の城郭跡があり、堀相模守という領主がいたといわれる。今は稲荷社と曲り公会堂がある。

武庫川の大迂回 地図で見ると武庫川はまっすぐ南下するのかと思われるがここで大きく東へ迂回し流れる。なぜでしょうか。

いぼころり地蔵 秋谷地蔵とも呼ばれる。かって貧しさから村から追い出された親子がここで七色の野菜の雑炊をめぐまれたがなくなった。地蔵を建てて手厚く葬った。その後村人にいぼのあるものはなおり、子宝にめぐまれない夫婦は子どもを授かったという。これから七色の品を供えるといぼが取れたり、子宝を授かったという。

洞窟兵器工場廃墟 ここから南の谷に入ると旧陸軍の大阪陸軍造兵廠の疎開先と思われる地下工場跡の地下壕がある。近くの藍国民学校が造兵廠の疎開先だったことから真実味がある。三田市は文化庁の近代遺跡調査に戦争遺跡として回答している。

相野 往古応神天皇と従臣らがこの地で会ったことから相野となったという。

藍小学校 昭和 10(1935)年創立。

大龍神社 大龍大権現を祀る。慶長年間(1600 年ごろ)に建立されたが、その後変遷し昭和 62（1987）年に大鳥居、狛犬等が新しくなった。大正 8（1919）年の完成した羽束川発電所の建設のためこの神域の大木が売られこの地区に電灯をともしたという。

武庫川と加古川(東条川)の谷中分水界 武庫川と加古川の支流東条川の谷中分水界は相野北部にある。これは上流田松川の谷中分水界と同じく対応する河川の河川勾配の大小によるものと考えられる。川の名前に「加古川」とつけられた小川が東条川とつながる。相野川の河川勾配は緩やかで、対する東条川は三田市大川瀬地区にある大川瀬渓谷（県立清水東条湖立杭自然公園）があり、河川勾配の差が大きい。大川瀬渓谷の上部には県営大川瀬ダムがあり、農業用水、水道用水用のダムである。（平成 2 年完成）。また藍小学校南のJR線沿いに武庫川と東条川との谷中分水界、更にいぼころり地蔵の谷を上り詰めたところに武庫川と相野川の谷中分水界がある。

四ッ辻 古くから篠山街道（現国道 176 号線）と巡礼街道の交差点があったからという。

ふれあいと創造の里 三田市の市民の自主的な交流を目的とする活動複合施設。ふれあい館を中心に、多目的グラウンド、レジャープール、つり堀、体育センターなどがある。

昌林寺 聖徳太子創建と伝えられ、建物は幾度か火災に会ったが貞宝元（1684）年再建され現在に至っている。東隣に八幡神社がある。

相野川 西相野に源流を発する武庫川の支流、広野で武庫川に合流する。起点は JR 相野駅の藍本駅寄りの JR 線沿いにある。延長 4289m の 2 級河川。河川は 3 面張りの上堤防の法面までコンクリート張りの「５面張り」草刈不要の人工河川である。

北摂三田テクノパーク 都市再生機構が開発した工場団地。総面積 136.1ha。44 社が進出。北西部に都市再生機構から移管を受けた大和ハウス工業が第２テクノパークが開発中、総面積約９７ha。

護国院 下相野は鎌倉時代から神社仏閣が早くから開け三田の神仏発祥の地といわれる。この護国院は宝永 5（1707）年創建、元は善壇寺という大寺が多くの坊を築いていたが衰退し護国院が残った。持国天立像、多聞天立像が国宝である。周囲に多くの神社仏閣が残る。

大きな記念碑 国道 176 号線沿いにある大きな記念碑は相野川流域土地改良区完成の記念碑である。